



藤原書店が本をだした。

出版社が本を出版することに何の不思議もない。しかし、昨年十一月に発足したこの小さな本屋から、本当に本が出るのか、出るとすればどんな本か、玄人筋は注目してきた。

藤原書店は、「新評論」社で多くの本を手がけてきた藤原良雄さんが独立しておこした本屋である。

この人が企画する本はどれもこれも骨っぽく、よくこれでやっていけるものだと感心する一方で、不安でもあった。

幸い彼は名伯楽だったらしい。いまゴルバチョフ氏を苦しめているソ連の民族問題の重要性を早くから見抜き、一九八一年にはH・カレール・ダンコースの『崩壊し

た帝国―ソ連における諸民族の反乱』の訳書を出版している。ゴルフ場問題に火をつけた山田国広さんの『ゴルフ場―国論』の生みの親もこの人だ。

藤原さんがなぜ古巣の出版社を出たか、本人は語りたがらない。ただ、自ら企画編集した二十点弱

名 伯 楽

の出版権が、「新評論」から譲渡されたのはよかった。

出版第一弾は、これまた時代に迎合しない内容の『交感するリビア』など三点だったが、それを追っかけるようにして、ピエール・ブルデュー著『ディスタンクシオン』全二巻が出た。

このフランスの代表的な社会学

者の著作をはじめとして、出版予定リストには、堅そうな、しかし専門家には見逃せない種類の本の名がずらり並んでいる。藤原さんは頑固に、これまでの路線を歩くつもりらしい。

印刷や製本の熟練者が減って、出版の世界は大変なことになっている。カネ払いのいい漫画週刊誌などは例外で、売れ行きの悪い本はたいてい出版が遅れている。大学の教科書、中高生の学習参考書にまで影響が出てきた。「予想以上の事態」と藤原さんも言う。

そんな状況のなかで、良心的な専門書をきちんと出すのはますます難しくなった。といって、だれもかれもが「軽チャ―」で済ましていたのでは、学問は根から枯れてしまう。

〈午〉

「日本一の編集者」は藤原書店の43歳

出版界の裏方、編集者を表彰する賞が初めてできた

「青い麦編集者賞」という、ささやかな賞の授賞式が一日、東京・一ツ橋の学士会館で行われ、藤原書店社長の藤原良雄さん(四三)に賞状と副賞二十万円が手渡された。

著者に贈られる賞は数々あるが、裏方である編集者を対象にした賞は初めてだ。

選考委員は上智大学教授の植田康夫、装丁家の菊地信義、出版評論家の小林一博、評論家の永畑道子の四氏。小林氏が十五年間主催する「本の会」という勉強会で、「売らんかなの本ばかり目立つ。真面目な本を手がけた編集者を励

ます賞をつくれないうらうか」と、話が持ち上がった。

しかし資金が……と、おあずけになっていたところへ個人のスポンサーが現れて、第一回の授賞になった。手作りの賞である。

発信型人間が真面目につくる藤原書店は歴史、思想など堅い本を中心に出版している。社長以下七人の出版社、フランスの歴史家ブローデルの『地中海』日本語訳出版が選考の決め手になった。

表彰式で、植田氏が、「小さな出版社の勇氣」

と、たたえると、藤原さんは、「このような賞を設けた方こそ勇氣と決断があった」と、エールを送り返した。

藤原さんは七三年、大阪市立大学を卒業して東京の新評論に入社した。学生時代は全共闘の風の時期で、授業にはほとんど出席せず、大学とはなにか、を考えた。

「吉田松陰の松下村塾とか、緒方洪庵の適塾のような塾をつくりたい、と思ったのです。そこで自分の考えを伝えたかった。そのため

には、外の世界で自分を磨こうと、出版社に入りました」

学生時代、被差別部落の問題が頭から離れず、被差別部落の子どもが四割いる中学校に、用務員として住み込んだこともある。

「だけど、解放同盟の青年部の人にいわれてね。『あなたがたにできることはなにもない。ただ私たちの上にのせている足をどけてくれ』って。学生の思い上がり

を痛打されました」

人間を発信型と、受信型に分けると、藤原氏は世の中に働きかけていく発信型のような人だ。

新評論に約十七年勤め、旧ソ連の民族問題を分析した『崩壊した帝国』(カレル・ダン・コース)などを手がけたが、あきたらず、八九年に独立する。ふつうの住宅

の二階を借りて、社員なし、一人だけの旗あげだった。

「二十一世紀を目前にして、われわれは今どんなところに立っているのか、を見直したい。それには歴史をとらえ直すしかない。そんな気持ちでした」

出版点数がすこずつ増えた。著者の歴史家を海外から招いて、日本の若手研究者との交流の場をつくった。塾に少し接近した。

良い本は読者が知っている五十年前に書かれた『地中海』は、十六世紀後半におけるこの地域を、経済、気象、地理、民族、宗教などあらゆる面からとらえた全体史である。仏文で千二百頁の大作。日本語訳はなかった。

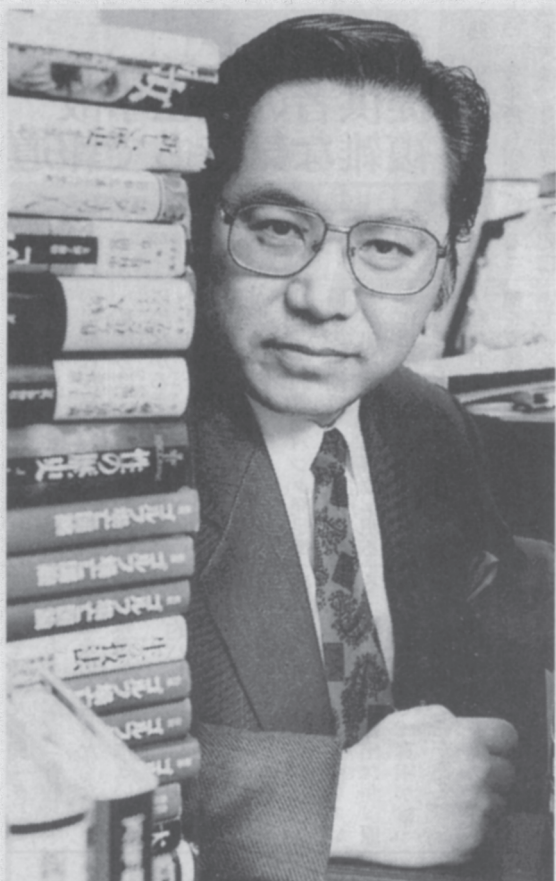
樺山紘一・東京大学教授(西洋史)によると、

「研究者はたいいて英語版で読んでいた。幻の日本語訳です」

大手出版社も敬遠してきたこの本に藤原さんが挑戦した。ルソーなどの研究家、南山大学文学部の近名優美教授に訳を頼んだ。五分冊にし、これまでに二冊出した。第一巻を二千部刷って、

「二年くらいで売ればいい」と、考えていたところ、予想外に好調で、七刷八千部。第二巻も近く四刷を予定している。一巻二千部で採算がとれるから、冒険と思われた本が利益を生んだ。

「ほんとうによい本は読者の方が知っている。売れないのは、編集者がよいものを見つけれず、自分にあまいからです」



「自分を磨く」「自分を磨く」求道者の言葉が似合う人だ

ブローデルはドイツ軍の捕虜収容所でこの大作を書いた



藤原書店社長

藤原 良雄 (45)



時代をまるごとつかむ。そんな夢を見つづけている。

自らを「出版屋」と呼ぶ藤原の本からは人の息づかいが聞こえる。街のにおい、服装、部屋の間取り。歴史のヒタに分け入り、過去を呼吸する面白さがある。

きかず出版界に新風を吹き込んだ。幕末の松下村塾、適塾に憧(あこが)れた。学問に触れたいと出版社に入り、学芸編集のフロに、四年前に独立した。

「我々が生きる今を知るには過去にさかのぼるしかない」。マルクス主義を経て仏アナル派歴史学に出会う。経済、地理、民族学を総動員して暮らしの機微

を描く手法に驚いた。「細部を書く司馬遼太郎の小説の楽しさと同じです」。

瀬戸内水軍の拠点だった大三(おおみ)島に生まれ、大阪・吹田で育つ。大学卒業後に上京、がく然とする。

「東京の人は東京以外はみな地方だと思っている。ごう慢です。大阪にもよさがある」。違いを認め、時代をそっくり抱きとめる藤原の原点かもしれない。

時代抱きとめる歴史の目

日本の
四十年代

ふじわら・よしお 一九四九年生まれ。大阪市大経済学部卒、七三年新評論社入社、編集長を経て、八九年に藤原書店を設立、同社社長。九二年「青い麦編集者賞」を受賞。

「団塊の世代」。中学校は七十人クラスで、「何事も競争、日々戦いだった」。若いころから向こう気が強く、「生意気で四十代に見られた」。

評論家粕谷一希は藤原を「思想学徒」と呼び、「普通の出版人にはない歴史観が貴重」と評する。学徒藤原の見る日本の若者には生きるエネルギーがない。「目に輝きがない。与えられたモノを享受するだけで作る喜びを知らない」。

昨年、編集者養成講座「機塾」を作った。「いい導き手がないから人が育たない。厳しい習練の場がある」。穏やかな目の奥に本づくりにへの情熱がのぞく。過去を知り、今を見つめ、後生に未来を託す。あえて急がないその足取りに、先人の遺産を伝える使命感が光る。

(敬称略)

文 玉利 伸吾
写真 渡辺 信雄

インタビュー

「タレント本やマンガが盛、質より量の出版界にあつて、硬派の歴史書、思想書の刊行を成功させている異色の出版社。フランスの歴史家フェルナン・ブローデルが十六世紀の世界を描いた『地中海』(全五巻)の初の日本語訳出版を四年前から始め、今年春に完結して話題に。独立後の出版は百二十点余になった」

「知る人ぞ知る名作と言われる『地中海』ですが、大著のうえに冊八千八百円と値段も高い。それなのに各巻一万部以上も売れたそうですね。」

「この商売は、いつも暗い(か)けなんです。予想以上の売れ行きで自分でも驚いているんです。現代を知るのに歴史を学ぶのは当然ですよ。ね。読者は流行で買ったので

はない。問題意識を持った、社会の核になる知的な人々が確実にいる。この国も捨てたものではないと心強く感じています。これから心ある人たちに、さらに知的刺激を与えるような作品を出し続けるつもりです」

「現代の様々な問題は従来の社会科学や自然科学だけではとらえられない。総合的なアプローチが求められているのに、大学にも出版界にも、そうした作業の受け皿がありません。本屋さんなどの棚に置いたらいいの困るようなものが今、必要なんです」

「価格破壊で商品は値下がりしています。うちの店は万引率が日本一とかで、棚に並べない本屋さんもあるそうです。それは

藤原書店社長

ふじ わら

よし お

藤原 良雄さん



写真部・松村 成泰

大阪市立大学経済学部卒。73年新評論に入り、80年編集部長。89年に独立して藤原書店を設立、社長に。92年、優

れた編集者に与えられる「青い表紙賞」の第一回を受賞。46歳。本社・東京都新宿区。

出版はオリジナリティーを競い合うものです

ともかく、本の値段が高いとか安いとか、何を基準に言えるんでしょう。書物は個性そのもの。欲しい人が買ってくればいいんですよ」

「僕から言えば、価格破壊の本家は出版業界なんです。十年前から、単行本が出てから一年もたずに同じものが文庫本にされるようになった。それで業界はこうなった。本は安ければ売れるものではないし、売れても忙しいばかりでもうからない状況が拡大再生産されたんです」

「歴史学のほか、『ゴルフ場と国論』(一九九〇年)など環境問題、レギュ

ラシオン派やブルデューなど新しい人文、社会科学の潮流を紹介。西欧女性史の決定版『女の歴史』(全五巻)を九四年から、この九月からはその日本版とも言える『女と男の時空―日本女性史再考』(全六巻)を刊行」

「企画はどのように生まれるんですか。『勘です。僕は学者じゃないし、原書をすべて読んでるわけじゃない。ただ、作品が誕生してきた背景に非常に興味があって、想像力を働かせると、何を言いたいのか分かる。自分の中の

何かが動かされるんです」

「それに、編集者は採算が読めなければだめ。十数年動いた出版社は社員が七、八人で、企画を出して売れなかつたら自分で責任とれ、というところでした。そこで、近代思想の方法論そのものを問い直す必要があると思っていた時期に、『地中海』につなが

るフランスのアナール派歴史学に出会い、手ごたえを感じて紹介したら成功した」

「九三年春から『機塾』と呼ぶ編集者養成の私塾を開いた。同年『野間宏の会』を創設、事務局長に。世界の知識人を寄稿者に持つ雑誌も構想中。編集者から流通、マスコミの書評まで、出版界を取り巻く現状

に懸念を隠さない」

「著者も編集者も、出版は個性なんです。だから、オリジナリティーが評価されるべきで、口当たりのいいものばかり紹介するのは、読者を冒とくしている。今は本を出す方、売り手、読み手とも緊張感が足りないと思います」

「活字で生きる出版はもうかるビジネスじゃありません。ただ、人々は質のために金を出すという時代になってきています。けれど、質を作るには時間がかかります。個性を持った優秀な編集者を育てない限り、この国の文化に未来は期待できません」

(飯田 栄一)

顔

「やってきた」とは、多分、間違っているなかったんだろ……」。

先づ、ドストゾラジ文化相から授与されたとき、そんな確信にも似た思いが、胸をよぎった。

新評論社編集長時代から数えれば十七年、一貫して仏アナル派歴史家たちの著作を紹介してきた。

フランスの芸術文化勲章を受けた

藤原 良雄さん
ふじわら よしお

経済、社会、文明といった側面から歴史を総合的に把握しようとする同派の方法論。人文社会科学全般に大きな影響を与えてきたが、当時の日本でこれを出版するとなると、やはり冒険だった。なのに振り返ると、紹介した著作、論文は百を超える。

簡単な話ではない。評判を取ったブローデルの名著「地中海」(全五分冊、約二千四百頁)の場合、発売にさき側面から歴史を総合的に把握しようとする同派の方法論。人文社会科学全般に大きな影響を与えてきたが、当時の日本でこれを出版するとなると、やはり冒険だった。なのに振り返ると、紹介した著作、論文は百を超える。

歴史の全体が見えてこそ現実を正確に認識できる——だからアナルにこだわってきた。でも、最近の研究は個別のテーマに深入りしすぎているように見えてならない。

受章での訪仏を好機に、これら歴史学者と会った。(全体を追求するという)原点を忘れてもらっては困る」と注文をつけ、激論になった。一流研究者の前でも、気骨の編集者になじろぎはない。



人が渴望する本を出したい

大阪市立大経済学部卒。新評論社で編集長を務めた後、1988年、藤原書店を設立。48歳。

パリ支局 中井 康朗

『読売新聞』1997年4月13日



藤原書店 略年譜

- 1989.11 東京都新宿区市谷柳町にて創立。
- 1990.1 創立パーティ開催（於・京王プラザホテル）。
- 1990.3 『ゴルフ場亡国論』『下水道革命』出版。
- 1990.4 『ディスタクンクションⅠ・Ⅱ』出版。PR 誌『機』創刊（隔月刊。91年11月より月刊）。
- 1991.8 新宿区早稲田鶴巻町518に事務所移転。
- 1991.11 『地中海』全5分冊発刊（～95年3月）。
- 1992.12 藤原良雄，第1回青い麦編集者賞受賞。
- 1993.5 「野間宏の会」創立（事務局・藤原書店内）。
- 1994.4 『女の歴史』全5巻10分冊・別巻2発刊（～01年3月）。
- 1995.9 〈女と男の時空——日本女性史再考〉全6巻・別巻1発刊（～98年10月）。
- 1997 野間宏『完本・狭山裁判』全3巻刊行。
- 1997.3 藤原良雄，フランス政府より芸術文化勲章（シュヴァリエ章）受章。
- 1997.10 〈コレクション鶴見和子曼茶羅〉全9巻発刊（～99年1月）。
- 1999.5 生誕200年記念〈バルザック「人間喜劇」セレクション〉全13巻・別巻2発刊（～02年3月）。
- 1999.6 新宿区早稲田鶴巻町523に事務所移転，現在に至る。
- 2000.1 鶴見和子，〈コレクション鶴見和子曼茶羅〉の刊行等により「朝日賞」受賞。
- 2000.4 学芸総合誌・季刊『環 歴史・環境・文明』創刊（15年5月，61号をもって第1期終刊）。
- 2002.4 藤原書店ブッククラブ設立。
- 2004.4 〈石牟礼道子全集・不知火〉全17巻・別巻1発刊（～14年5月）。
- 2004.10 〈後藤新平の全仕事〉『〈決定版〉正伝 後藤新平』全8分冊・別巻1発刊（～07年6月）。
- 2005.3 河上肇賞創設（藤原書店主催。06年1月，第1回授章式）。
- 2005.7 「後藤新平の会」創立（事務局・藤原書店内）。
- 2006.10 『わたしの名は紅』『雪』のオルハン・パムク，トルコ人として初のノーベル文学賞受賞。
- 2007.3 NPO 法人「ゆいまーる琉球の自治」創立（副理事長・藤原良雄）。第1回会合は久高島にて。以後琉球弧の島々で年2回開催。
- 2007.6 「後藤新平賞」創設（主催・後藤新平の会）。第1回受賞者は李登輝・台湾元総統。
- 2008.5 〈一海知義著作集〉全11巻・別巻1発刊（10年1月本巻完結）。
- 2010.12 『天安門事件から「08憲章」へ』の劉曉波，ノーベル平和賞受賞。
- 2010.11 『叢書『アナール 1929-2010』』全5巻発刊（～17年6月）。
- 2013.3 〈清朝史叢書〉（岡田英弘監修）発刊。
- 2013.6 〈岡田英弘著作集〉全8巻発刊（～16年6月）。
- 2016.10 〈竹山道雄セレクション〉全4巻発刊（～17年5月）。
- 2017.4 〈多田富雄コレクション〉全5巻発刊（～17年12月）。
- 2018.1 〈金時鐘コレクション〉全12巻発刊。

* 敬称略

受賞歴

- 第8回淡沢クロードル賞 本賞（1991年）
ディスタクンクション——社会的判断力批判 I・II P・ブルデュエ著／石井洋二郎訳
- 第32回日本翻訳文化賞／第31回日本翻訳出版文化賞（1995年）
地中海 全5分冊 F・ブローデル著／浜名優美訳
- 小泉八雲市民文化賞（1993年）
六道湖物語——水と人とのふれあいの歴史 保母武彦監修／川上誠一著
- 第52回毎日出版文化賞（1998年）
江戸女流文学の発見——光ある身こそくろしき思ひなれ 門玲子著
- 第38回造本装幀コンクール展 日本書籍出版協会理事長賞（芸術書部門）（2004年）
大石芳野写真集 アフガニスタン 戦禍を生きぬく 大石芳野著
- 第41回日本翻訳出版文化賞（2005年）
サルトルの世紀 B・H・レヴィ著／石崎晴己監訳，澤田直・三宅京子・黒川学訳
- 第41回造本装幀コンクール展 日本書籍出版協会理事長賞（人文・社会科学書部門）（2007年）
西欧言語の歴史 H・ヴァルテル著／平野和彦訳
- 第61回毎日出版文化賞（企画部門）（2007年）
〈決定版〉正伝 後藤新平 全8分冊・別巻1 鶴見祐輔著／一海知義校訂
- 第6回角川財団学芸賞（2008年）
子宝と子返し——近世農村の家族生活と子育て 太田素子著
- 第21回アジア・太平洋賞 大賞（2009年）
後藤新平と日露関係史——ロシア側新資料に基づく新見解 V・モロジャコフ著／木村汎訳
- 第32回国際交通安全学会賞（2010年）
都市をつくる風景——「場所」と「身体」をつなぐもの 中村良夫著
- 第9回パピルス賞（2010年）
徹底検証 21世紀の全技術 現代技術史研究会編
- 第41回高見順賞（2011年）
金時鐘四時詩集 失くした季節 金時鐘著
- 第1回寺田真理記念日本研究賞 日本研究奨励賞（2011年）
ジャポニズムのロシア——知られざる日露文化関係史 V・モロジャコフ著／村野克明訳
- 第56回JCJ賞（2013年）
大石芳野写真集 福島 FUKUSHIMA 土と生きる
- 第35回熊日出版文化賞（2013年）
坂本直充詩集 光り海
- 第15回俳句四季大賞（2015年）
石牟礼道子全句集 泣きなが原
- 第52回日本翻訳出版文化賞 翻訳特別賞（2016年）
アルメニア人の歴史——古代から現代まで G・ブルスティアン著／小牧昌平監訳・渡辺大作訳